

会計上の見積りで問題になりやすい 「在庫評価」・「減損」への 監査対応はこうする

第1章

見積りを前提とした会計処理の考え方とは？
会計上の見積りの監査への対応ポイント

第2章

評価単位の検討、評価の実施など
棚卸資産(在庫)の評価に対する監査対応ポイント

第3章

4つのプロセスごとに検討する
固定資産の減損に対する監査対応ポイント

的場 清訓(株)アカウンティングアドバイザー 公認会計士・米国公認会計士

近年、決算において監査法人から会計上の見積りを要する論点について指摘されることが増えている。会計上の見積りは恣意性が入りやすく、財務情報の作成において中立性が損なわれる可能性が高いからだ。

今回は、会計上の見積りに関する論点のうち、多くの会社において問題となりやすい「棚卸資産の評価」、「固定資産の減損」に論点を絞って、監査への対応をするうえでのポイントを解説していただいた。また、IFRS 上のポイントにも言及していただいた。これから決算を迎える企業の一助となれば幸いである。